



2024年3月「うつくしま地球温暖化防止活動推進員の会」(県北地区)活動報告

3月2日9時から12時まで福島市内のアオウゼで7名が参加して県北の会の会合が開催されました。



3月2日の会合の様子

1. 「うちエコ診断」の受診について
「うちエコ診断」事業の活用については、今後受診結果も含めて報告し合いながら、身の回りの課題を共有し、脱炭素社会を推進することにしました。
2. 今後の予定について
令和6年度の事業計画について話し合が行われ、以下のように進めることになりました。
 - ① 4月13日県北の会の総会
 - ② 5月24日第1回研修会
 - ③ 6月15日意見交換会
 - ④ 7月福島県地球温暖化防止活動推進センターの訪問、意見交換、活用資料の確認
 - ⑤ 9月福島市環境フェスタの準備
 - ⑥ 10月6日福島市「環境フェスタ」の参加
 - ⑦ 12月第2回研修会なお、県北の会に御興味のある方は、環境共生

課(024-521-7813)までご連絡ください。

3. 次年度の役割分担について
県北の会の運営に関する次年度からの役割分担について確認をしました。
4. その他
郵送代の値上がりが予定されており、可能な限り連絡はLINEで行うこととし、希望者でグループを構成することになりました。LINE参加を希望しない会員にはこれまで通り郵送、SMS、mailなどで連絡することになりました。

IPCC 第6次評価報告書ワーキングII 第10章：アジア

アジアの人口は44億6千万人と世界の人口の60%を占めていて、この報告書ではカザフスタンやウズベキスタンなどの中央アジア、ウラル山脈東部のロシアやモンゴルの北部アジア、中国、韓国、日本などの東アジア、マレーシア、ヤンマー、タイなどの東南アジア、インド、ネパール、パキスタンなど南部アジア、イラン、イラクなどの西部アジアの6つに区分して51か国の気候変動やその影響とリスク、またその適応策について記載されています。アジア地域は乾燥・半乾燥地域やモンスーン循環の顕著な地域、ヒマラヤなどの氷河地域など気候変化に伴う事象も多様かつ複雑な地域となっています。

図1はアジアで観測された気候変動の属性と検出を示したものです。縦軸に気候変動による影響、横軸に影響に与える気候変動の要因、また、そのエビデンス(証拠)の多さや信頼度などの高さを表しており、アジア地域で出現が確認されている現象がどのような気候変動と関連

しているかを分かり易く示しています。

例えば、1番目の「熱波」は、気温上昇による影響が大きく、そのエビデンスや信頼度など

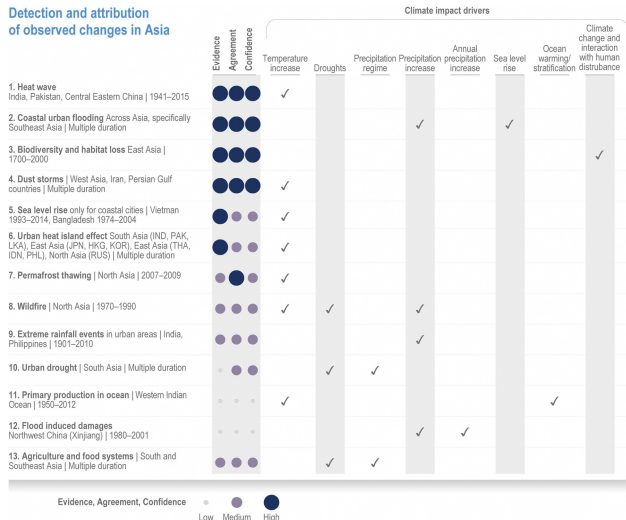


図1 アジアで観測された気候に影響する変化の属性と検出

縦軸：1. 熱波 2. 沿岸部の都市洪水 3. 生物多様性と生息地の喪失 4. 砂嵐 5. 海面上昇（沿岸都市のみ） 6. 都市ヒートアイランド（UHI）効果 8. 山火事 9. 極端な降雨現象（都市部） 10. 都市干ばつ 11. 海洋における一次生産 12. 洪水による被害 13. 農業と食料システム、横軸：エビデンス（証拠）の多さ、合意度及び信頼度の高さ、気候変化として気温上昇、干ばつ、降水域、降水量増加、年降水量の増加、海面上昇、海洋の温暖化と成層変化、気候変化と人口分布の相互作用

も高いことを表しており、2番目の「沿岸都市の洪水」は、降水量の増加や海面上昇による影響が大きく、そのエビデンスや信頼度も高いことを表しています。一方、11番目の「海洋における1次生産」は、気温上昇と海洋温上昇、海水の成層変化による影響が大きいことを表していますが、そのエビデンスや信頼度などは低いことを示しています。

図2は具体的にアジアの気候変動に関する主なリスクの分布を示しています。北部アジアの永久凍土の融解、森林火災、東アジアの生物多様性、熱波、ヒートアイランド、西部アジアの砂嵐、南アジアを中心とする熱波、極端な降水、東南アジアの農業、洪水、海面上昇などが主なリスクとなっています。こうしたリスクに対する適応策として洪水地帯の計画的な避難やマングローブの植林、生態系サービスの管理、地元での防災科学の普及などが挙げられていますが、容易ではありません。それは今もなお各地で紛争が起きているほか、都市の貧困、インフラの未整備、コミュニティスペースの不足などがあるため、気候変動への適応や、その影響から

Key risks related climate change in Asia



図2 アジアの気候変動に関する主なリスクの分布

の回復力の強化も課題となっています。

図3はアジアの一部の都市における主な気候変動によるリスクとその適応策の進捗状況を示したものです。横軸に6区分された中の代表的な都市が挙げられており、縦軸はその都市の2020年と2035年の人口、主な気候リスクとして洪水、海面上昇、熱波と都市ヒートアイランド

Key risks and adaptation options in select cities across Asia

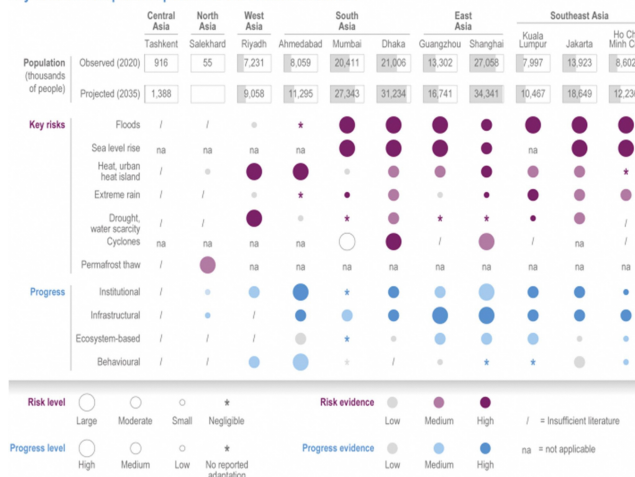


図3 アジアの一部の都市における主なリスクと適応オプションの進行状況

ド、干ばつと水不足、低気圧、永久凍土の融解が挙げられており、それらに対する、制度、インフラ、生態システム、適応行動の4つの適応策の進行状況が示されています。丸の大きさは各レベルの高さを示し、色の濃さはエビデンス（証拠）の多さを表しています。南・東・東南アジアでは気候変動によるリスクが多いものの、適応策も積極的に進められていますが、中央・北アジアではリスクや適応策の進捗状況を示すエビデンスが不十分であることを示しています。同じアジアでも地域差が大きい現状を理解することが課題解決には必要です。